

職員による児童発達支援事業所自己評価表

公表日：2025年 9月 26日

実施期間：2025年 6月 16日 ～ 2025年 6月 27日

事業所名：町田市子ども発達センター

対象の職員数：37人

	No.	質問内容	回答		工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい	いいえ	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	☐		定められた基準を満たしています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	☐		規定以上の職員の配置をしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	☐		療育室の扉に、部屋の名称に合わせた色の掲示を行ったり、シンボルマークや写真、数字数字などを使用したりしながら、「見てわかりやすい療育環境づくり」に取り組んでいます。お子さんの発達特性に対して、より適切な支援につながる工夫を継続します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	☐		お子さんが快適に過ごせるように、療育室等の生活空間は清掃と消毒を毎日行い、感染症対策を含めた衛生管理に努めています。 また、委託業者による全館清掃を定期的の実施しています。 その他にも、園庭やデゴイチの点検（毎朝）、砂場消毒の実施（毎週）など、安全な療育環境を整えています。 お子さんの活動に合わせたスペースとしては、各療育室やプレイルーム、感覚室など、それぞれの活動に合わせた必要なスペースを確保しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	☐		お子さんの様子に合わせて個別に活動場所等を調整しています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	☐		勤務形態が異なる職員間の連携に配慮し、毎朝のミーティングや療育グループごとの打ち合わせ、週 1 回の係内会議など各種会議を通して、PDCA サイクルを繰り返し行い、業務の継続的な改善に努めています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		事業所の評価を実施し、保護者の意向を把握し業務改善につなげています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		定例の会議や日々のミーティング等を通して、職員の意見を把握するとともに、業務の改善につなげています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		☐	第三者による外部評価は、実施に向けて引き続き検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	☐		職員の資質の向上については、年間を通して計画的に研修の機会を設けています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	☐		左記のとおり実施しています。 公表内容はこちらからご覧ください → ★町田市子ども発達センター支援プログラムの公表について アドレス https://kosodate-machida.tokyo.jp/mokuteki/3/5/2/13248.html
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	☐		左記のとおり実施しています。



	No.	質問内容	回答		工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい	いいえ	
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		左記のとおり実施しています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		左記のとおり実施しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールとしては新版 K 式発達検査 2 0 2 0 を使用しています。その他、日々の振り返りなどを通してお子さんの行動観察の様子を共有し、アセスメントに繋げています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		お子さんの様子や保護者のニーズに合わせた支援内容を設定しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		グループ担任でお子さんの様子を共有しながら、個々のお子さんのニーズに合わせた活動プログラムをチームで立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムについては、安定したルーチンを作るために、基本的な生活の流れについては活動場所を固定したプログラムを設定しています。その他の活動の時間については、固定化しないよう定期的な見直しを図っています。また、他グループと一緒に活動をするなど、それぞれのお子さんに合わせたプログラムの実施にも取り組んでいます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子さんの発達課題に合わせて、少人数による活動、個別的な関わり、他グループとの交流を支援内容に取り入れた児童発達支援計画を作成し、計画に応じた支援を行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		左記のとおり実施しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		左記のとおり実施しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		左記のとおり実施しています。
連携 関係機関や保護者との	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6 ヶ月に一回以上のモニタリングを行い、児童発達支援計画（個別支援計画）の見直しを行っています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要に応じて担任や関係職員が担当者会議に参加し、情報の共有を図っています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて保健、医療、障害福祉、教育等各関係機関と連携を図り、情報共有を行いながら支援を行っています。

	No.	質問内容	回答		工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい	いいえ	
関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の承諾を得て、幼稚園・保育園等と連絡を取り合い、情報共有・相互理解を図っています。 また、幼稚園・保育園等への入園児は、入園決定後申し送りを行っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前に、就学支援シートを作成し、就学先に情報提供を行っています。 小学校には通常、連絡会での申し送りを行っています。 特別支援学校には、担当者間で直接申し送りを行っています。 また、医療的ケアが必要な児童、想定される児童については、就学相談関係者と該当児童の様子を観察や共有を行っています。
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		障がい児虐待防止研修やことばの発達について等の研修を、他の児童発達支援事業所や他機関から講師を招いて開催し受講しています。 市内の事業所との連携会議を年 2 回設け、情報共有をしています。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		必要に応じて、東京都や他機関主催の研修を受講しています。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		町田市子ども・子育て会議や子育て支援ネットワーク会議に参加しています。
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		保育所や認定子ども園、幼稚園との交流を少しずつ再開しています。今年度も高校生療育体験ボランティアを通して、異年齢の交流を実施しました。また昨年度は地域の公立保育園と交流の機会を持ち、年長児との交流を実施しました。
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		「サービス提供の記録（連絡ノート）」や日々の申し送り、親子療育日、療育参加月間などを通して、保護者の皆さんとお子さんの様子を共有しています。
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントプログラム（にこにこプログラム）や保護者研修会を実施し、家庭での生活のしやすさにつながるような研修の機会や情報提供を行っています。
保護者への説明等	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約・入園説明会で詳しくお伝えして了解を得ています。
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		左記の通り実施しています。
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		左記の通り実施しています。
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談には、速やかに対応をしています。グループ担任だけでなく、専門スタッフとも連携しながら助言や支援をする機会を設けています。

	No.	質問内容	回答		工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい	いいえ	
保護者への説明等	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会や保護者会主催の集会への場所の提供・設定支援を行っています。また、「小学生の保護者を囲んで」をテーマにパネルディスカッション形式の会をセンター主催で実施しています。 また、懇談会や保護者の療育参加等、行事を通じて家族を含めた交流の機会を設けています。
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		左記の通り対応しています。
	40	定期的に通信等を発行することや、HP や SNS 等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者研修等の子ども発達センター事業や感染症情報については、まちだ子育てサイトで情報発信をしています。 また、成長療育支援システム HUG で定期的なお便り（週 5 日通園）や、お知らせ等を配信しています。 バスの運休や休園情報、引き渡し訓練、災害時等の一斉送信は、緊急メール配信をしています。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護研修を職員全員が受講し、取り扱いには十分に注意しています。
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さん一人ひとりの特性に合わせ、写真カードや実物を用いた「見てわかる」ための支援等をしています。また、サービス提供の記録や面談、電話連絡、成長療育支援システム HUG、メール等を通してご家庭と連携を図りながら適切な支援につなげていきます。 配布物、配信内容については、翻訳アプリ等を使用しやすくするため、ふりがなを順次廃止しています。 成長療育支援システム HUG では視覚的に分かりやすくするために、フルカラーで配信を行っています。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		夏まつりやサッカー体験等の行事では、子どもセンターまあちの子ども委員会や FC 町田ゼルビアと協働での取り組みを実施し、地域へ開かれた形で開催しました。 また、高校生療育体験ボランティア事業を通して、地域の高校生が療育に参加する機会を設けました。 今後も地域と協働でインクルーシブ社会の推進を目指した取り組みを行っていきます。
非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		自衛消防訓練の年間計画に基づき、定期的に訓練を実施しています。防犯に対しては今年度も職員を対象に不審者対応訓練を計画しています。感染症についても、マニュアルに基づいて訓練を実施しています。防犯マニュアルに関しては、今年度策定予定です。
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		自然災害や感染症の蔓延等、有事の際でもできる限り最低限のサービスを提供し、事業を継続するための業務継続計画（BCP）の策定をしています。 また、上記のとおり年間を通して、非常災害訓練を実施しています。 非常時使用物品については、年 2 回物品及び有効期限の確認を行っています。
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		左記のとおり実施しています。
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		主治医による指示書（町田市保育施設等における食物アレルギー疾患生活管理指導票）に基づき、完全除去食の対応をしています。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		左記のとおり実施しています。
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		非常時等の対応について、年 1 回の引き渡し訓練や通園のしおりを通して、周知・確認をしています。

	No.	質問内容	回答		工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい	いいえ	
非常時等の対応	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、状況の分析と対応について記録をし、ミーティング等において職員全員に周知することで危険予防につなげています。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、虐待防止チェックリストを年２回実施するとともに、職員全員に虐待防止研修を実施しています。
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束の適正化については、委員会を設置し「身体拘束適正化のための指針」に基づいて決定しています。 身体拘束を行わない支援の可能性を検討した上で、やむを得ない場合のみ保護者の了解を得た上で、子どもの安全を目的とした必要最低限の拘束を実施します。なお、拘束の目的や内容、期限などについては個別支援計画に記載しています。